

3 本校の特色

本校は、小山市南部の、思川東部に広がる低地（水田地帯）が思川東部台地に駆け上がる台地の縁に立地している。

本校は昭和22（1947）年4月28日に間々田小学校の敷地の一部に新制中学として開校した。その翌年、間々田八幡宮の北側の古墳が点在する荒地であったこの地を、地域住民と生徒・職員が共同作業で切り開いて、そこに校舎を建築し、昭和24（1949）年8月29日に移転した。その木造校舎は、昭和53（1978）年に改築工事が開始され、昭和55（1980）年9月27日に新校舎が落成した。昭和63（1988）年4月1日には、乙女中と分離し、現在に至っている。

令和5年度（2023年）は、創立77年目にあたる。

本学区は、思川東部に広がる低地と台地とからなっている。

思川東部低地（乙女中・美田中・小山二中学区と隣接）は水田が広がっており、人家はほとんどない。

思川東部台地（乙女中・大谷中・小山城南中・小山二中・野木町立野木中・野木二中学区と隣接）は、畑・果樹園の中に雑木林や工場が点在し、水田は水路沿いに広がっている。

学区のほぼ中央の台地上を、JR宇都宮線・東北新幹線及び国道4号線が南北に走り、その周囲は商店街や住宅地が広がっている。近年、宅地化が急速に進展し、それに伴いJR間々田駅周辺や国道4号線沿い以外にもショッピングモール等の商業地が拡大してきている。

保護者の職業は、会社員や自営業が比較的多い。

間々田旧市街地や農村部では、間々田の「じゃがまいた」や間々田ひも等に代表される郷土の伝統を大切にしている心が見られ、母校である本校に対する期待も大きい。また、他の地区からの転居も多く、教育に対する考えや郷土を愛する心も多様である。

P T A活動は、昭和24（1949）年発足以来の伝統があり、学校に大変協力的である。運動会や年中祭等の学校行事には、精力的に活動し、学校を側面から援助している。各委員会の活動も活発で、P T A研修会や趣味の会等も盛んに行われている。

生徒は、明るく素直であり、運動会や文化祭などの学校行事には意欲的に協力し合いながら活動できる。学級活動等で話し合い活動の経験を積むことにより、主体的に自己決定を行い、実行しようとする姿勢が身に付いている。また、自分を大切にすると共に、お互いを大切にすることを醸成し、爽やかな挨拶の励行に努めている。

運動部や文化部の活動も盛んで、多くの部活動が、栃木県内及び下都賀地区内において好成績を収めている。